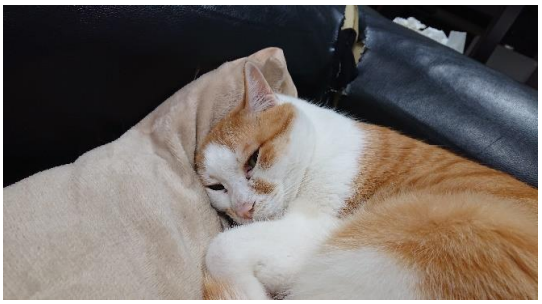
こおり治療院通信

令和4年3月1日発行
NO.168

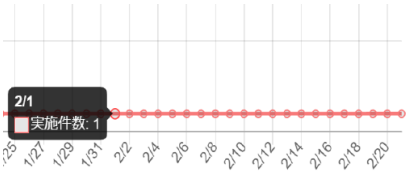


我が家の愛猫ミユくん
眠気眼です=^_^=

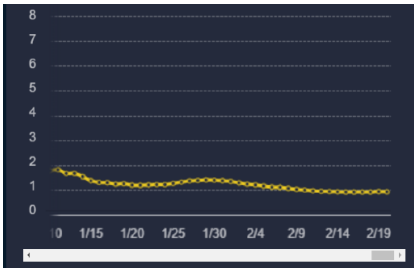
ごあいさつ

皆さん、こんにちは。今年の冬は本当に寒かったですね。雪の多さにも参りました。3月になり、さすがに少しずつ暖かくなってはきています。春もすぐそこです。しかし、季節の変わり目は自律神経が乱れ体調を崩しやすくなります。十分にお気をつけ下さいね。

さて、福島県に出されていたまん延防止重点措置が、本来2月半ばで解除される予定でしたが、今月初めまで延長されました。データを見れば明らかなのですが、まん防が出された2月初旬にはすでにピークアウトしており、その後ずっと減少傾向となっていましたので、まん防を出す意味も、延長する根拠も何も示されてはいません。病床逼迫などと言っていますが、福島県全体で2月中に一番重症者が多かった時期で「4人」です。県民186万人中4人が重症になると医療が逼迫する。それは感染の問題ではなく、医療体制が脆弱なだけでしょう？そして喉が痛い程度の軽症で入院隔離する「2類相当」の扱いを続けていることが入院者数を増やす要因です。こんな馬鹿げたことをしているのは世界でも日本だけです。世界はもう「コロナは普通の風邪」として扱うよう政策を転換してきています。フィンランド・デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・アイルランド・リトアニアなどは全規制撤廃、イギリス・フランス・スペイン・イタリア・ニューヨークなどはマスク義務廃止、イスラエル・スイスなどはワクチンパスポート廃止、スイスは隔離も廃止、タイはPCRを今年中に廃止すると発表しています。そもそも諸外国は日本のような厳しい水際対策など実施しておらず、日本の入国制限を「SAKOKU」と揶揄しています。ただの風邪が流行しただけで国を閉ざす排他的な日本は世界の笑いものです。テレビではそのような事実を一切報じず、未だに「死の病」であるかのように恐怖と不安を煽り続けています。それでも世論調査で約60%もの国民が「5類以下に引き下げるべき」と回答しています。コロナが怖いのではなく、コロナ対策が怖い。現状が、過剰な感染対策による「人災」であると、半数以上の国民が気付き始めているということです。5類以下にすれば、この騒動はすべて終了します。5類の季節性インフルは年間1000万人もの患者がいましたが医療崩壊など起こしませんでした。インフルでは関連死を含め毎年1万人以上の死者が出ていましたが、社会は普通に動いていました。常識を思い出しましょう！



この1ヶ月重症者の最大数4人でしたが、人工呼吸器を着けている方は1



1月末頃から実行再生産数も右肩下がり感染拡大などしていません。これが事実です。